

大分県学力定着状況調査 小学5年生（4月22日実施）

平均正答率	国語	算数	理科
市	65.9	70.4	64.2
目標値	66.0	65.9	61.7
県	68.1	70.2	63.3
全国	66.1	66.1	60.4

観点別 平均正答率	国語		算数		理科	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用
正答率	市	68.9	59.1	72.1	66.1	72.2
	目標値	69.4	58.1	68.5	59.4	68.5
	県	70.9	61.8	72.6	64.1	71.4
	全国	69.4	58.8	68.6	59.5	68.2

学力調査の概要

（1）良好な項目

- ◇国語科では、相手や目的を意識して自分の考えとそれを支える理由や事例をあげて文章を書くことができる。「読むこと」において、特に物語文の読み取りについて県平均を上回っている。
- ◇算数科では、「活用」や「思考・判断・表現」の領域において県・全国平均を上回っている。記述式での無回答率が県の半分程度ととても低くなっている。
- ◇理科では、すべての領域において県平均を上回っている。「体のつくりとはたらき」において関節や筋肉の様子についての理解が定着している。

（2）課題がある項目

- ◇国語科では、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書き表すことに課題が見られる。また漢字の書きだけでなく、読みについても県平均を下回っている。
- ◇算数科では、小数のしきみについて理解が不十分である。伴って変わる2つの数量の関係に着目し、文字を使った式で表すことに課題がみられる。表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する学習の経験が必要
- ◇理科では、物のあたたまり方について、既習内容を生活経験と結び付けて考え、それを説明する力に課題がある。鉄道のレールに隙間がある理由、部屋を早く温めるためのエアコンの風の向きをどうするか説明する設問において正答率が低くなっている。

質問紙調査結果の概要

学力層（学力4層）×質問別一回答構成比から

- ◇「つらいことや困ったことがあった時、何でも本音で相談できる友だちがいますか」の項目について、ABC層の肯定率が70%台に対し、D層の肯定率は86.8%と高くなっている。
- ◇「自分なりに頑張ったことを先生が認めてくれて、うれしかったことがありますか」の項目について、ABC層の肯定率が80%を超えているが、D層の肯定率は73.7%にとどまっている。
- ◇「あなたの気持ちを分かろうとしてくれる先生がいますか」の項目はABC層の肯定率が80%台に対し、D層の肯定率は94.7%と高くなっている。
- ◇「将来の夢や目標がありますか」の肯定率は88%だが、A層は81.6%と他の層より低くなっている。
- ◇「テストで間違えた問題をやり直しているか」の項目に対し肯定率は83.1%となっているが、層によって大きな違いはない。
- ◇「4年生までに受けた授業」で「『めあてや課題の提示』『まとめや振り返り』を行っていたと思うか」の2つの項目では下位層に比べ上位層の肯定率が高くなっている。

大分県学力定着状況調査 中学2年生(4月22日実施)

平均正答率	国語	社会	数学	理科	英語
市	69.8	49.6	60.1	56.0	53.0
目標値	61.4	47.6	56.7	50.8	51.5
県	67.6	46.5	54.1	53.4	49.4
全国	64.4	44.4	52.4	48.9	50.4

観点別 平均正答率	国語		社会		数学		理科		英語		
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	
正答率	市	74.8	59.3	53.2	41.5	66.3	39.6	58.0	51.3	56.8	46.2
	目標値	66.8	50.0	50.3	41.7	60.9	42.9	52.0	48.0	53.5	47.7
	県	72.4	57.1	49.5	39.9	59.3	36.9	55.8	47.9	51.4	45.6
	全国	69.3	53.8	47.2	38.4	57.2	36.4	51.0	44.2	51.4	48.6

学力調査の概要

(1) 良好な項目

- ◇全教科・領域において県の正答率を上回っている。
- ◇国語科については、すべての観点領域について県、全国ともに上回っている。話し合いの内容を聞き取る内容や漢字の読み書きについても高い正答率となっている。
- ◇社会科では、「地理」の分野において県、全国平均を大きく上回っている。
- ◇数学科では、「知識・技能」、また「数と式」の単元において大きく上回っている。
- ◇理科では、「生命」の領域において74.2%と高い正答率となっている。
- ◇英語科では、「書くこと」において県・全国平均を10%近く上回っている

(2) 課題がある項目

- ◇国語科では、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめ文章を整えて書く問題の無回答率が20%と高かった。
- ◇社会科では、資料を読み取り、既習知識と関連付けて考察し、自分の考えを説明することに課題がある。また無回答率が31.2%と県平均よりもかなり高くなっている。
- ◇数学科では、「データ活用」の領域について正答率が低くなっている。必要なデータを取集しそこから読み取った傾向をもとに説明する問題について、正答率、無回答率が高くなっている。
- ◇理科では、「力のはたらき」において力の矢印の作図の正答率が22.5%と県平均より低くなっていた。
- ◇英語科では、英語での問い合わせに対して自分の考えを答える問題について正答率が14.5%であり、即興で英語対応することに課題がある。

質問紙調査結果の概要

学力層(学力4層) × 質問別一回答構成比から

- ◇「家の人はあなたの気持ちを分かってくれますか」「あなたの気持ちを分かろうとしてくれる先生がいますか」の肯定的 responses はABC層に比べ、D層は10ポイント程度低くなっている。
- ◇「あなたのクラスではみんなが掃除当番や係の仕事を責任をもってしていますか」の項目ではA層が55.9%と一番低く、D層は85.3%と一番高く回答している。
- ◇「あなたのクラスにはいいところがあると思いますか」は層に関わらず、肯定的な回答が97.1%以上となっている。CD層は100%と回答となっている。
- ◇「好きな教科や授業がありますか」の項目について、層に関係なく90%以上の肯定的な回答だったが、「テストで間違えた問題は後でやり直していますか」の肯定的 responses がA層82.4%、D層の38.2%と差が40ポイント以上ある。
- ◇「1年生の時の授業の中でめあてや課題が示されていたか」では97.9%で層による違いは少なかったが、「まとめや振り返り」は87.8%となっており、下位層に行くほど肯定的 responses が少なくなっている。